

■ 概況

2/13~2/19のNYMEX・WTIは、51.42~53.29ドルの範囲で推移した。

2月20日は、好調な米国経済指標と1日遅れで発表された米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油在庫が市場予想ほどには増加しなかったこと、ガソリンと中間留分の在庫は減少したことを好感し、続伸した。3月限終値は前日比0.49ドル高の53.78ドル。

週末21日は、新型コロナウィルスの感染が世界各地で拡大していることを懸念して、大幅に反落した。この日は、米国株式市場も株安が進行した。OPECでは減産強化に向けた動きがでているものの、ノバク露エネルギー相は消極的な姿勢であることも下押し要因となっている。ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は678基と前週比横ばいとなった。この日から中心限月に繰り上がった4月限終値は前日比0.50ドル安の53.38ドル。

週明け24日は、新型肺炎の感染が韓国・イタリア・イランでも拡大するなど、世界経済への影響が一段と懸念され、大幅続落した。欧米株価も全面安の様相で、リスク回避姿勢が強まった。4月限終値は前日比1.95ドル安の51.43ドル。

25日は、引き続き、新型肺炎の感染の影響の世界経済停滞懸念が拡大する中、大幅続落、約2週間ぶりに50ドルを割り込んだ。4月限終値は前週末比1.53ドル安の49.90ドル。

26日は、前日に続き、新型肺炎の世界経済へ影響懸念がさらに拡大し、4営業日続落した。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報の発表で、原油在庫の積み増し幅が市場の予想を下回ったことにより、一時買戻しもあったが、勢いはなかった。4月限の終値は前日比1.17ドル安の48.73ドル。

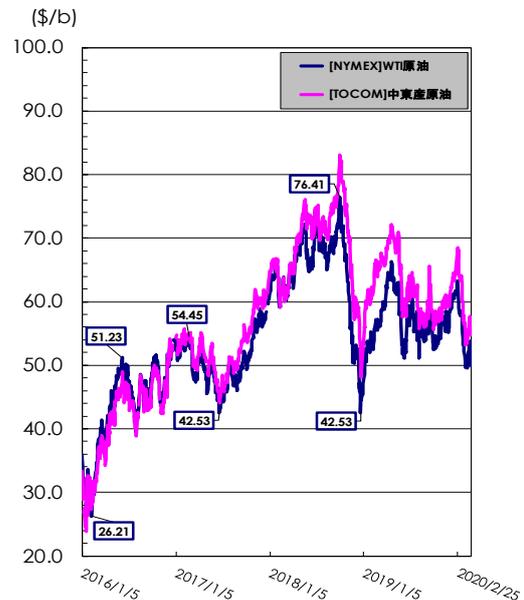
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月渡し)は2月13日~19日の間55.10~56.70ドルの範囲で推移した。2月20日57.50ドル、21日56.70ドル、25日54.70ドル、26日52.70ドルで推移した。

為替は2月13日~19日の間109.80~109.94円の範囲で推移した。2月20日111.28円、21日112.11円、25日110.91円、26日110.31円で推移した。

財務省が2月27日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、2月上旬の原油輸入平均CIF価格は、49,482円/klで、前旬比753円高、ドル建て71.71ドルで前旬比0.89ドル高。為替レートは1ドル/109.70。

そのような中で、2月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.7円の値下がり、軽油も同0.7円の値下がり、灯油は同9円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油も4週連続の値下がりだった。この週(2月第4週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円値上げとなった。

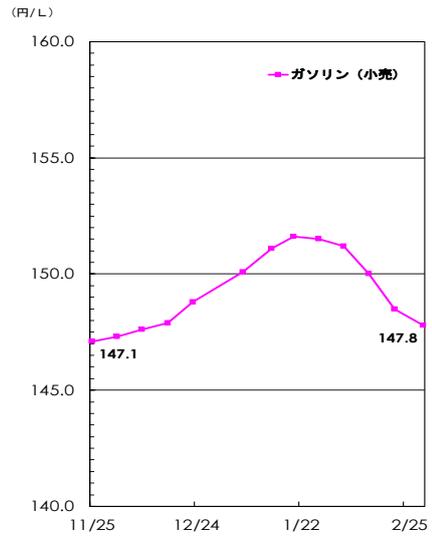
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/16 ~ 2/22	3,302 ▲115	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.3 ▲2.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	2/22	10,765 ▼-181	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/25	54.82 ▼-0.83	▼-11.4
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/24	51.43 ▼-0.62	▼-4.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月上旬	71.71 ▲0.89	▲9.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	49,482 ▲753	▲6,548
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.70 ▼-0.31	▼-0.06
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/25	111.91 ▼-1.11	▼-0.13



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/16 ~ 2/22	883 ▼ -4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	852 ▼ -26	▼ -	
	輸出	"	19 ▼ -93	▼ -	
	在庫	2/22	1,695 ▲ 12	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/18 ~ 2/24	54.9 ▲ 1.1	▼ -3.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/18 ~ 2/24	53.7 ▲ 1.4	▼ -2.2
		(TOCOM/中部)	2/21	55.0 ▲ 0.8	▼ -3.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/25	147.8 ▼ -0.7	▲ 3.8	

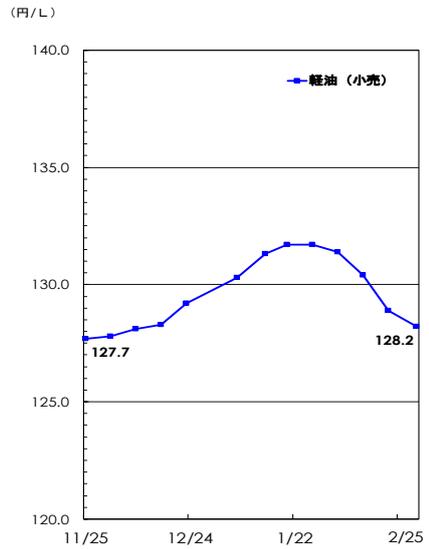
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

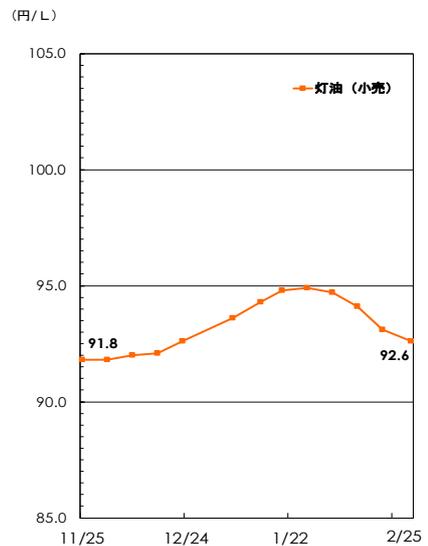
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/16 ~ 2/22	745 ▲ 26	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	720 ▲ 138	▲ -	
	輸出	"	178 ▼ -17	▼ -	
	在庫	2/22	1,460 ▼ -154	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/18 ~ 2/24	58.3 ▲ 0.3	▼ -3.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/18 ~ 2/24	62.9 ▲ 1.0	▼ -0.6
		(TOCOM/中部)	2/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/25	128.2 ▼ -0.7	▲ 3.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/16 ~ 2/22	264 ▼ -38	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	464 ▲ 60	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	2/22	1,599 ▼ -200	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/18 ~ 2/24	57.9 ▲ 0.6	▼ -3.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/18 ~ 2/24	56.3 ▲ 1.7	▼ -5.0
		(TOCOM/中部)	2/21	58.0 ▲ 1.3	▼ -1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/25	92.6 ▼ -0.5	▲ 3.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

2月26日のNYMEX市場WTI原油は、引き続き、新型コロナウイルスによる感染者が韓国・イタリア・イラン等でも拡大するなど、再び世界経済への影響拡大が懸念され、4営業日続落した。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報の発表で、原油在庫の増加が市場予想を下回り、ガソリン・中間留分も減少し、一時は買戻しもあったが、勢いはなかった。3月5日のOPEC総会、6日の合同会合に向け、OPECプラスは、一部で減産強化の動きもみられるが、ロシアの態度が消極的な模様。4月限の終値は前日比1.17ドル安の48.73ドル、5月の終値は同1.18ドル安48.88ドル。

EIAによると、2月24日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.8セント値上がりの1ガロン2.466ドル(73.6円/ℓ)、ディーゼルは同0.8セント値下がりの2.882ドル(86.0円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは7週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年2月16日～2月22日に休止したトッパー能力は35.7万バレル/日で、前週に対して4.5万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は330.2万klと、前週に比べ11.5万kl増加。前年に対しては22.9万klの減少。トッパー稼働率は84.3%と前週に対して2.9ポイントの増加、前年に対しては5.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリン/0.4%減、ジェット/31.2%増、灯油/12.6%減、軽油/3.7%増、A重油/4.8%減、C重油/14.7%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比3.6万kl減)。軽油の輸出は17.8万kl(前週比1.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリンが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェットと軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は85.2万kl(対前週3.0%減)と2週連続で減少となり、27週連続で100万klを下回った。ジェット4.1万kl(対前週142.3%増)、灯油46.4万kl(対前週15.0%増)、軽油

72.0万kl(対前週23.7%増)、A重油26.4万kl(対前週29.6%増)、C重油9.8万kl(対前週13.6%増)。

(単位:千KL)

	今週 (2/16 ~ 2/22)	前週 (2/9 ~ 2/15)	前週比
ガソリン	852	878	▼ -26 (-3%)
ジェット燃料	41	17	▲ 24 (141%)
灯油	464	404	▲ 60 (15%)
軽油	720	582	▲ 138 (24%)
A重油	264	203	▲ 61 (30%)
C重油	98	86	▲ 12 (14%)
合計	2,439	2,170	▲ 269 (12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月22日時点の在庫は、ガソリンが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは169.5万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては6.4万kl多い。

灯油は159.9万kl、前週差20.0万kl減。前年に対しては6.0万kl多い。

軽油は146.0万kl、前週差15.4万kl減。前年に対しては2.0万kl少ない。

A重油は68.8万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては10.0万kl少ない。

C重油は186.7万kl、前週差3.8万kl減。前年に対しては8.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (2/22)	前週 (2/15)	前週比
ガソリン	1,695	1,683	▲ 12 (1%)
ジェット燃料	843	849	▼ -6 (-1%)
灯油	1,599	1,799	▼ -200 (-11%)
軽油	1,460	1,614	▼ -154 (-10%)
A重油	688	728	▼ -40 (-5%)
C重油	1,867	1,905	▼ -38 (-2%)
合計	8,152	8,578	▼ -426 (-5.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月18日～24日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、2月18日～24日の間、ガソリン108～109円台で値上がり、軽油58円台で値上がり、灯油57～58円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン110～111円台で値上がり、軽油59～60円台で値上がり、灯油56～57円台で値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン106～108円台で大きく

値上がり、軽油62～63円台で値上がり、灯油55～57円台で大きく値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

2月18日～24日の製品スポット市況は、2月11日～17日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格(2/18～2/24、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.4円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。

3月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げになった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (2/18～2/24)	前週 (2/11～2/17)	前週比
レギュラー	54.9	53.8	▲ 1.1
灯油	57.9	57.3	▲ 0.6
軽油	58.3	58.0	▲ 0.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (2/18～2/24)	前週 (2/11～2/17)	前週比
レギュラー	53.7	52.3	▲ 1.4
灯油	56.3	54.6	▲ 1.7
軽油	62.9	61.9	▲ 1.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/18～2/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.1	▲ 1.4	▲ 1.2
灯油	▲ 0.6	▲ 1.7	▲ 1.1
軽油	▲ 0.3	▲ 1.0	▲ 0.6
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前回比0.7円安の147.8円、軽油も同0.7円安の128.2円、灯油は18%ベースで同9円安の1,666円(1%ベースでは同0.5円安の92.6円)。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油も4週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは2県、横ばいが1都、値下がり44道府県となった。全国最安値は埼玉県の141.9円(同0.9円安)、その次に安いのは石川県の142.3円(同0.8円安)、最高値は長崎県の160.9円(同0.3円安)。横ばいは東京都、最も値上がりしたのは0.5円高の徳島

県(同147.6円高)、最も値下がりしたのは同1.9円安の香川県(145.3円)・沖縄県(153.4円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった。次回調査時(3月2日)のガソリン・灯油の小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (2/25)	前週 (2/17)	前週比	直近高値
レギュラー	147.8	148.5	▼ -0.7	08/8/4 185.1
灯油	92.6	93.1	▼ -0.5	08/8/11 132.1
軽油	128.2	128.9	▼ -0.7	08/8/4 167.4

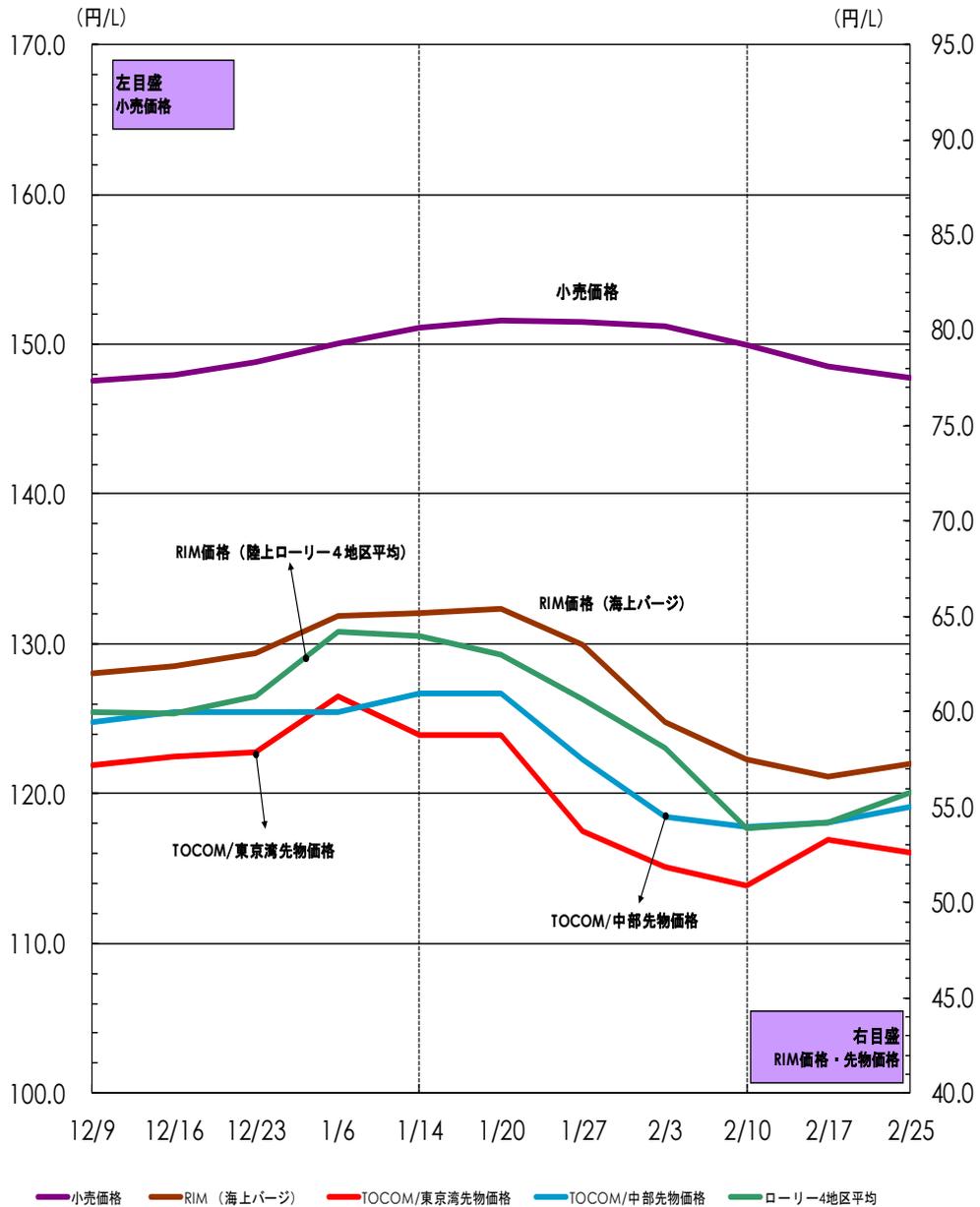
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/12/9 ~ 2020/2/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2019第46号) の公表は、3/6 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在) は、12月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。